

苦しみには「はい」
「はい」の年
スティーヴ・ミッチェル
2024年・一月・28日

皆さんと一緒にいられることを嬉しく思います...司牧選出プロセスの最新情報...なぜ私が期待していたよりも時間がかかっているのか...神とポー牧師、そしてこの暫定期間におけるチームのリーダーシップの忠実さを祝います...私は今日貴理事会と会い、次のステップについて話し合う予定です。彼らが考慮すべきいくつかの選択肢...

B4教会は「はいの年」と呼ばれるシリーズです。私たちは、2024年を、私たちがイエスに似せるものにイエスと答える年にしたいと考えています。ポーは、私がこれまでに「はい」と答えた最も重要なことの1つについて話してもいいですかと尋ねました...そして私は、イエスが私にあなたと分かち合いたいことをすぐに理解しましたが、あなたはそれを気に入らないでしょう...ハハ...

それは何よりも私を形作ってきたものですが、私の選択によるものではありません。私は誰にもそんなことは望んでいませんし、あなたがそのような経験をしないようにとさえ祈ります。しかし、あなたがそれを経験したときに、私と同じようにあなたも変わることを祈ります。

準備はできたか？私が「はい」と答えた最も重要なことは、苦しみでした。もしかしたらあなたも、私と同じように、「苦しみに対して『イエス』とは誰も言えない」と思っているかもしれません。それはただ起こるのです。しかし、私が話しているのは、苦しみが来たときに神にどのように反応するかを選択することです。

そして、おそらくあなたは今、困難な時期ではありません。私はあなたと一緒に神を賛美します...しかし、もしかしたら、この教えは、これから来るかもしれない嵐に備えて保管しておいてください。そうすれば、イエスがあなたに言われたことを思い出すことができます...

一生に祈りしまそう...

剣を持った少年たちの写真を見せて...大人になるまでのハイキングの伝統と、私が夜に息子たちと行った最後のハイキングについて話してください。1年も経たないうちに、2016年6月16日に私の長男が自動車事故で亡くなりました。電気が消えました...

2016年10月の日記で、私は次のように書きました。「私は悲しみの広大な海の上で、気まぐれに吹く波と風の中で漂っているような気がします。地平線は四方八方から遠く離れていて、私は流れが私をどこへ導くのか分かりません。」

私たちの世界は悲しみ、不安、混乱に満ちています。まるで光が消えて太陽が二度と昇らないかのように、私たちは嵐に吹き飛ばされているように感じる場合があります。

世界がひっくり返ったように感じる場合がありますよね。戦争と戦争の噂。自然災害。イデオロギーによって引き裂かれた家族。病気。悲劇。

ニコラス・ウォルターシュトルフは、息子の悲劇的な死を受けて、著書『息子の嘆き』の中で、「私は涙を通して世界を見ることになるだろう。もしかしたら、乾いた目で見えなかったものが見えるようになるだろう。」と書いている。

私は世界、人生、そして神についていくつかのことを再発見しました。そして、人生で最も暗く最も困難な時期を経て、どのようにして光、つまり神のもとへ戻る道を見つけたのかを少しお話したいと思います。

皆さんと同じように、私も教会で育ち、イスラエルとエジプトの人々を救ったヨセフのような古い聖書の物語や、神がどのようにして彼のために乗り越えられたかなどを教えられてきました... 私たちはそれらの物語が大好きです...なぜなら、彼らの物語は私たちのものであるべきだと信じているからです話...

しかし、私たちは重要なことを忘れていました。ジョセフが飢餓から人々を救うために穴に投げ込まれる数ページの間には、数十年にわたる闘い、疑問、疑い、そして不安があったということです...

私たちは紅海を渡る物語を愛し、何世紀にもわたる奴隷制を忘れます...ヨルダン川を渡って約束の地へ、そして40年間の放浪を忘れます...十字架のない復活...殉教のない初代教会の力そのフォロワーのうち...

人生が聖書の物語と一致しないとき、あなたはどうしますか - その瞬間に何をするかは非常に重要です...

私は何百人もの人が2つのうちの1つを行うのを見てきました:

- 1) 彼らは聖書や教会からあまりにも早く目を背け、私たちが誤った情報を与えられていたと単純に結論付けます。神は気にしませんし、関与しません。統計によると、人々は試練が来ると神から離れていきます。その理由は、この世の苦しみと、私たちの味方であり、私たちと共にいて下さる善良な神との折り合いを付けることが難しいからです。または...
- 2) 彼らは聖書をしっかりと握り締めながらも、盲目的に、これ以上難しい質問をしたり、この信仰生活は厳しいものであると正直に述べたりすることがなく、最終的には幻滅してしまいます...

ヨブから詩篇、そして園のイエスに至るまで、聖書のページに見られると私が信じている第三の選択肢があります。疑問や疑いを喜んで神に叫び求める人々と、耳を傾けてくださる神です。嵐が神とのより深いつながりを育むようにという誘いとともによって来たらどうなるでしょうか?

聖書は苦しみを分かち合うことを躊躇しません:

- イエス:この世では、あなたは困難に直面するでしょう... 私たちに寄り添い、慰めてくださる聖霊、パラクレーテを私たちに送ってくださいました...
- ヨブ – ヨブがすべてを失った後、神との間でたくさんの会話が...
- コラの子ら – 詩篇 42

”神よ、しかが谷川を慕いあえぐように、わが魂もあなたを慕いあえぐ。わが魂はかわいているように神を慕い、いける神を慕う。いつ、わたしは行って神のみ顔を見ることができるだろうか。人々がひねもすわたしにむかって「おまえの神はどこにいるのか」と言いつづける間はわたしの涙は昼も夜もわたしの食物であった。わたしはかつて祭を守る多くの人と共に 群れをなして行き、喜びと感謝の歌をもって彼らを神の家に導いた。今これらの事を思い起して、わが魂をそそぎ出すのである。わが魂よ、何ゆえうなだれるのか。何ゆえわたしのうちに思いみだれるのか。神を待ち望め。わたしはなおわが助け、わが神なる主をほめたたえるであろう。”

詩篇 42:1-5 口語訳

詩編作者は困難の中でも、神に希望を置くよう勧めています。神への祈りと神への希望の間には関連性があります... 神への希望がなければ、私たちは神との関係を築く可能性が低くなります... 希望がなければ私たちは神のところに來ることはできません。

希望を表す2つの主なヘブライ語...

カヴァ = 待っているときの緊張感- 農夫は収穫を期待している、あるいは「ロープは持ちこたえるだろうか」。

- カヴァは、人間の人生の長さや質、その不確実性と充実感の両方に焦点を当てています。

スキューバダイバー、メル フィッシャーの物語を語る ヌエストラ セニョーラ デ アトーチャで宝物を探していた人 – 彼は出かけるたびに息子にこう言いました – 今日がその日です – 今日が私たちがそれを見つける日です... 彼らはこの宝物を 15 年間探していました... 希望... 待っている... 期待しています... そう願って... そして15年後のその運命の日、彼らは最終的に4億ドルの価値がある宝物を発見しました – 待つ価値はありますか？

ヤチャル = 期待して待っています。もしてはなく、いつ。

- 力強さとしっかりと立つこと、あるいはおそらく出産中で痛みを伴う期待を抱いて待っていることと関連しています。
- ヤチャルは、ほとんどの場合、待つべき対象、通常は神、神の言葉、法律、または神の行為を要求します。
- そして時にはとても長く感じることもあります...

私たちの最初の赤ちゃんの誕生 – 14時間の重労働(音声録音があります)... スザンヌのうめき声と痛み... 彼女の叫び声... 希望を失った感覚 – この赤ちゃんは決して生まれぬ... 痛みは決して終わることはない...

4人目の赤ちゃんの誕生まで早送りしてください – 今、私たちはこのような状況をあと3回経験しています。痛みは必ず終わるとわかっています。それはほんの一瞬、一季節です...痛みが終わる、痛みが止まる、または痛みが軽減されると知っていましたか?いいえ。スザン又はまだうめき声を上げていましたが、彼女のうめき声は、赤ちゃんが生まれてくるという希望を失ったわけではありませんでした。それは彼女が苦しんでいることを意味していました。

希望はあなたをその中に留めます – それはあなたを戻ってこさせます...あなたが自信を持っていても(ヤチャル - 赤ちゃんは来るでしょう)、または不確実でも(カヴァ - 私たちがその宝物を見つけることができるかどうかはわかりません)...希望はあなたを戻って来続けさせますイエス、特に苦しみの時に...神は、あなたが彼から立ち去るよりも、怒って彼のところに行くことを望んでいます...

旧約聖書の中で私のお気に入りの物語の1つは、神と格闘するヤコブの物語です。この物語は、人がどのようにして苦しみに対して「はい」と言えるかについて、私にとっても心に響きました

...

”彼はその夜起きて、ふたりの妻とふたりのつかえめと十一人の子どもとを連れてヤボクの渡しをわたった。すなわち彼らを導いて川を渡らせ、また彼の持ち物を渡らせた。ヤコブはひとりあとに残ったが、ひとりの人が、夜明けまで彼と組打ちした。ところでその人はヤコブに勝てないのを見て、ヤコブのものつがいにさわったので、ヤコブのものつがい、その人と組打ちするあいだにはずれた。その人は言った、「夜が明けるからわたしを去らせてください」。ヤコブは答えた、「わたしを祝福してくださらないなら、あなたを去らせません」。その人は彼に言った、「あなたの名はなんと言いますか」。彼は答えた、「ヤコブです」。その人は言った、「あなたはもはや名をヤコブと言わず、イスラエルと言いなさい。あなたが神と人との力を争って勝ったからです」。ヤコブは尋ねて言った、「どうかわたしにあなたの名を知らせてください」。するとその人は、「なぜあなたはわたしの名をきくのですか」と言ったが、その所で彼を祝福した。そこでヤコブはその所の名をペニエルと名づけて言った、「わたしは顔と顔をあわせて神を見たが、なお生きている」。こうして彼がペニエルを過ぎる時、日は彼の上にのぼったが、彼はそのものゆえに歩くのが不自由になっていた。そのため、イスラエルの子らは今日まで、ものつがいの上にある腰の筋を食べない。かの人がヤコブのものつがい、すなわち腰の筋にさわったからである。”

創世記 32:22-32 口語訳

私の息子たちが小さかったとき、私は彼らと格闘したものです...彼らが(善良な種類の)慈悲を求めて叫ぶまで、彼らを地面に組み伏せました。私は激しさを増し続けました...彼らを部屋の向こう側のソファに放り投げました(時々ソファから落ちました)。彼らは一瞬泣いてから、すぐに私に体を投げ返し、「もっと、もっと」と叫びました...

彼らは父親と格闘することを決して恐れませんでした(少し緊張していたかも知れませんが)...

しかし、私たちのほとんどは、神と格闘することを恐れています...疑うこと、質問すること...私も以前はそのような質問をするのが怖かったのですが(おそらく今でも少し緊張していると思います)、簡単に答えのない質問がありました...

そこで私は、若干の恐怖を感じながらも、神とリングに上がり、神と格闘し、神に答えを求めることにしました...

そして、私の叫びや質問に耳を傾け、私が信じていることを明確にしてくださる神を見つけました。古い真実は、チェイスが亡くなる前に想像できたよりもはるかに深い方法で私に戻ってきました。それらはより強力で、より持続的です。しかし、時間がかかりました。

しかし、格闘と苦しみの中で私が見つけた最も重要なことは、神とのより深く、より親密な関係でした。

息子たちと私が床でお互いをつかみ、抱き合い、飛び跳ねていたとき、それは父と息子としての私たちにとって親密な接点でした...一晩中格闘していたヤコブと神にとっても同様だったに違いありません...

神がヤコブを傷つけた後も、彼は諦めませんでした...彼は神と関わり続けました...

神が息子の死を許したとき、私はとても怒りました...神とは何の関わりも持ちたくありませんでした...自分が何年も神に仕え、神の為に多くの犠牲を払ってきたことを日記に書きさえしました...私はそれを和解することができませんでした...

しかし、私がやろうと決めたのは、神から逃げるよりもはるかに勇気がいることで、痛みの中で神のもとへ駆け寄ることでした...

ヘブライ人への手紙の著者...

この希望は私たちの魂にとって、強く信頼できる錨です。それは私たちをカーテンを通して神の内なる聖域へと導きます。ヘブライ人への手紙 6:19 新約聖書 (礼拝チームが来る)

希望 - 神への希望がなければ、私たちは神のもとに来る可能性が低くなります。神への希望は私たちの魂の錨です。それは私たちを神の臨在に引き寄せ、そこで神に会い、神に叫び、愛されるのです...

場合によっては、ブレイクスルーとブレークスルーの唯一の違いは、嵐をどう乗り越えるかということです。待ち、期待し、不安を感じながらも、その過程でイエスへの希望を失うことはありませんでした。

私は今、これまで以上に、何かネガティブなことが私たちの外で起こるときはいつでも、神が私たちの中に何かを働かせる機会であると確信しています。私たちが喜んで神のところに来るのであれば。

嵐のせいで私は変わってしまいました...私は以前の私と同じ人間、夫、父親、牧師、指導者ではありません...私が御前で待っている間、イエスは御霊によって私を変えてくださいます。

聞いてください、私は息子が亡くなる前と同じではありません。私は変わった。同じようには歩きません。私は同じことを話さない。私は同じことを優先しません。この変化は息子の死によって起こったわけではありませんが、私が息子と一緒にリングに上がるという神の招きを受け入れたときに起こりました。苦しみと不安の中で彼の存在に「イエス」と言うこと。

そして今日、私は足を引きずりながら歩いていますが、神との格闘だけがもたらすことができる神とのより深い親密さとともに歩いています。

インスピレーション - 思い出に残るものにする - なぜそれをする必要があるのか (メッセージを「定着」させ、メッセージのビジョンを再構築する創造的な要素)

あの山の上で、一緒に身を寄せ合い、寒く湿った風による嵐に震えながら、息子たちと私はその瞬間ほど親密になったことはありませんでした...

私は今これを知っています: イエスは嵐の山の腹や影の谷で私たちに会ってください... 私は恐れませんが、あなたが私と一緒にいるから...

イエスの招きはそのままです。「疲れた者、重荷を負っている者は、すべてわたしのところに来なさい。そうすれば、わたしはあなたたちを休ませてあげます。」私は失恋に近づいています。

悲しみと苦しみは、お互いとイエスとのより深い親密さへの誘いです...

ですから、友人の皆さん、希望を捨てないでください。希望を諦めないでください。希望に背を向けしないでください。言えるよ、暗闇の向こう側には光がある... 絶望の向こう側には希望がある... 一緒にイエスのもとへ走ってくれる? 一緒にイエスに向かって叫んでくれる? 痛みや疑問を許してくれる? 、あなたの疑念があなたをひざまずかせて祈ります...

祈り: 時々私は、群衆がイエスの教えのせいでイエスから離れていったとき、あなたが親しい友人たちに向かって「あなたも去るつもりですか?」と尋ねたペテロのように感じることはありません。そしてペテロは言います、「主よ、他にどこへ行きますか。あなたは永遠の命の言葉をお持ちです。私はあなたを信じます。」